

高校数学において、生徒の知識及び技能の定着を図る指導の工夫

—アンケート作成ソフトの条件分岐機能の活用—

特別研修員 数学 前原 玄（高等学校教諭）

【生徒の実態】

クラス内の学力差が大きく、基礎学力の定着に向けての指導が必要な生徒から、発展問題にも対応できる生徒まで幅広くいる。

【教師の願い】

学習理解度に差がある生徒たちでも、一人一人が基礎学力の定着を図れる教科指導を実現したい。

授業実践 数学 I 「確率」

【手立て】 アンケート作成ソフトの条件分岐機能を活用し、生徒の理解度に応じた問題を提供する

手立ての準備

今日の問題を解く

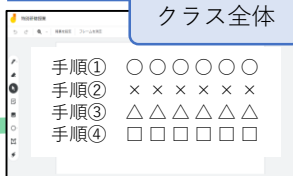
個人

解くための手順を考える

グループ

手順に番号を付ける

クラス全体



アンケート作成ソフトの条件分岐機能を活用して、今日の問題を手順に沿って解いていく



分からない場合は復習問題が出題される

できた

できない・できたけど不安

次へ進む



できない。復習へ

できたけど不安。復習へ

間違えた！穴埋めで再チャレンジ

復習①A

復習①A穴埋め

復習①B

復習①B穴埋め

復習①C

復習①Bも間違えたけど、次は正解するぞ

復習①C穴埋め

できた！手順②に進もう！

手順②

手順③

手順④

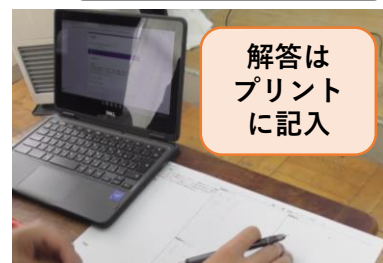
手順②③④も復習問題を準備

復習で分かってきた！手順①に再チャレンジだ

全部の手順ができた！

発展問題へ

解答はプリントに記入



【目指す生徒像】自身の学習理解度を知り、知識及び技能を身に付けている生徒

【成果】

アンケート作成ソフトの条件分岐機能を活用することにより、生徒からは「つまづきが分かる」「すぐに復習問題に進むことができ自分に合った学習ができた」など肯定的な意見が多く、個別最適な学習ができ、基礎学力の向上と定着に効果があった。

【課題】

「復習がもう一問あるとよかった」という意見があった。生徒の実態に沿った問題の質と量の準備が必要である。